

桃山学院大学創立35周年にあたって

学 長 山 崎 春 成

本年は学校法人桃山学院創立 110 周年の年であり、また桃山学院大学創立 35 周年の年でもあります。学院の方の 110 周年となりますと、これは大阪ではもっとも古い私学の一つということで古い歴史を誇ることとなりますが、大学の方は「もう」35年ともいえるし「まだ」35年ともいえる、いささかどっちつかずのところにあります。35年の歳月は短いとも長いともいえるようです。

創立以来もう35年もたって、最初は経済学部だけの小さな大学だったものが、いまや経済、社会、経営、文の4学部、さらに大学院（経営学、文学の2研究科）をもつ、かなりの規模の大学に成長しました。規模の拡大にともなって、キャンパスも昭和町から登美丘へ、その登美丘も狭隘となって明年には和泉の新キャンパスへ全面移転することになりました。本学が世に送り出した卒業生も、もう累計3万人をこえました。35年もたつと教職員でも創立当初からという人は、もうほとんどいなくなりました。激烈な大学紛争やそれにつづく深刻な経営難という試練の時期を知る教職員すら少なくなりました。35年でも、ずいぶん波乱に富んだ濃密な経過がありました。それをきちんとした「正史」として書き留めておくことが、そろそろ必要になってきたと思います。

しかし、35年は大学の歴史としては、まだ短いと思うこともしばしばです。あらゆる面で、蓄積の乏しさ、厚みのなさを感じさせられます。古いばかりが能ではないとも思いますが、長い歴史をもつ大学には多少貫禄負けを覚えるというのが偽らざるところです。しかし、創立年のちがいはどうやっても消せませんが、蓄積の差は今後の努力次第で埋めてゆくことができます。こ

の「経済経営論集」などに、学界の注目をあつめるような力作，問題作が次々と掲載されるようになればいいのです。それを期待し待望します。